

株式会社加藤研削工業 代表取締役 ^{かとう よしたけ} 加藤 義竹 氏

蓄積された高度な再研磨技術力で 日本のモノづくりを支える



代表取締役 加藤義竹氏

取締役営業部長 加藤慎市氏

取締役工場長 加藤寿男氏

PROFILE

(左端) 1967年生まれ、新潟市出身。新潟工業高校を卒業後、静岡大学工業短期大学部に入學。浜松市内の工具メーカーで働きながら大学に通う。1990年に帰郷し加藤研削工業に入社。2006年、創業者である父の後を継ぎ代表取締役に就任。弟2人は営業部長、工場長を務め、3兄弟で会社の発展を目指す。2019年より新潟商工会議所の小規模企業振興委員を務める。

昭和41年の創業以来、モノづくりの現場に欠かせない切削工具・機械刃物の再研磨メンテナンスを中心に手掛けている加藤研削工業。豊富なノウハウと技能士たちによる高い技術力を基盤に、近年、独自の再研磨サービスで販路開拓を進める加藤社長にお話を伺いました。



株式会社加藤研削工業
〒950-0821 新潟市東区岡山1282番地
TEL: 025-271-7144
<https://www.kato-kk.net>

「不等ピッチメタルソー」は、県外から送料を支払ってでも当社に依頼してもらえ技術を開発したいと思って取り組みました

競争力の高い技術サービスで 新規顧客を獲得

食品から合成樹脂、建材、金属部品など、幅広い製造分野で使用される切削工具や機械刃物の再研磨を主力事業とする加藤研削工業。創業者である父から経営を受け継いだ加藤社長が力を入れて取り組んでいるのが、ユーザーが使用しているメタルソー（丸鋸）の刃を不等ピッチに再研磨するサービスだ。

この「不等ピッチメタルソー」は、通常は等間隔に施されているメタルソーの刃先を不等間隔にすることで、切断時の振動や音が抑えられ、工具寿命の延長や切断時間が短縮できるのが特徴。不等ピッチの再研磨は技術と手間がかかるため、国内でも数社しか取り組んでいない。あえて挑戦したのは、手掛けてきた事業の中で特徴のある、競争力の高いサービスを作りたいからだ。研究を重ね、独自の技術を開発したことで県外からの依頼や再研磨のリピーターが増加し、顧客獲得に繋がっている。

専門家派遣や補助金制度などを活用し Webサイトで事業をPR

まだ知名度がない不等ピッチメタルソーを広くアピールするため、同社は商工会議所の専門家(IT関連)派遣制度を活用し、HP内に専門サイトを制作。その後も小規模事業者持続化補助金[※]を活用し、サイトの刷新を図った。

また、社長に就任する前から商工会議所主催のセミナーに参加していたという加藤社長は、「セミナーの中で1つでも2つでも良かったと思うものがあれば、



高精度・高品質な製品を提供する同社の強みとなっているのが、技能士たちの技術力。技能検定試験に向けて1級技能士による指導が行われるなど、若手社員のスキルアップに繋がる社内体制が整っている。

それを実践していくことが大事。その集積が今に繋がるのではないのでしょうか」と語る。

お客様に喜ばれ、 社員が幸せになることを大切に

国家資格の切削工具研削技能士1級が5名、2級が1名と、全国の同業者の中でトップクラスの技能士数を誇る同社は、スキルアップのための支援をはじめ、働く環境づくりも重視している。「お客様を大切にすること、そして社員を大切にすることを大事にしています。お客様に喜んでいただき、地域のためにできることを行い、会社の利益をきちんと出して納税する。そういう社会への貢献ができた結果、働く我々が幸せになれるのだと思います」。

昨年から商工会議所の小規模企業振興委員を務め、地域企業の相談役や同所への橋渡しなども担当する加藤社長。「振興委員として小規模企業からの声を少しでも届けていきたいと思っています。そして当社としては、このコロナ禍を乗り越えていくことがまずは重要。その上で独自のサービスを県外に広げていくこと、さらにその次も考えていくつもりです」と、次の展開に向けて力強く動き出している。



加藤社長がまとめた83項目あるフィロソフィ（企業哲学）。社員全員が冊子を持っている。

※
小規模事業者
持続化補助金

詳細はコチラ

